

今も、これからもずっと “ともに生きる”教科書へ

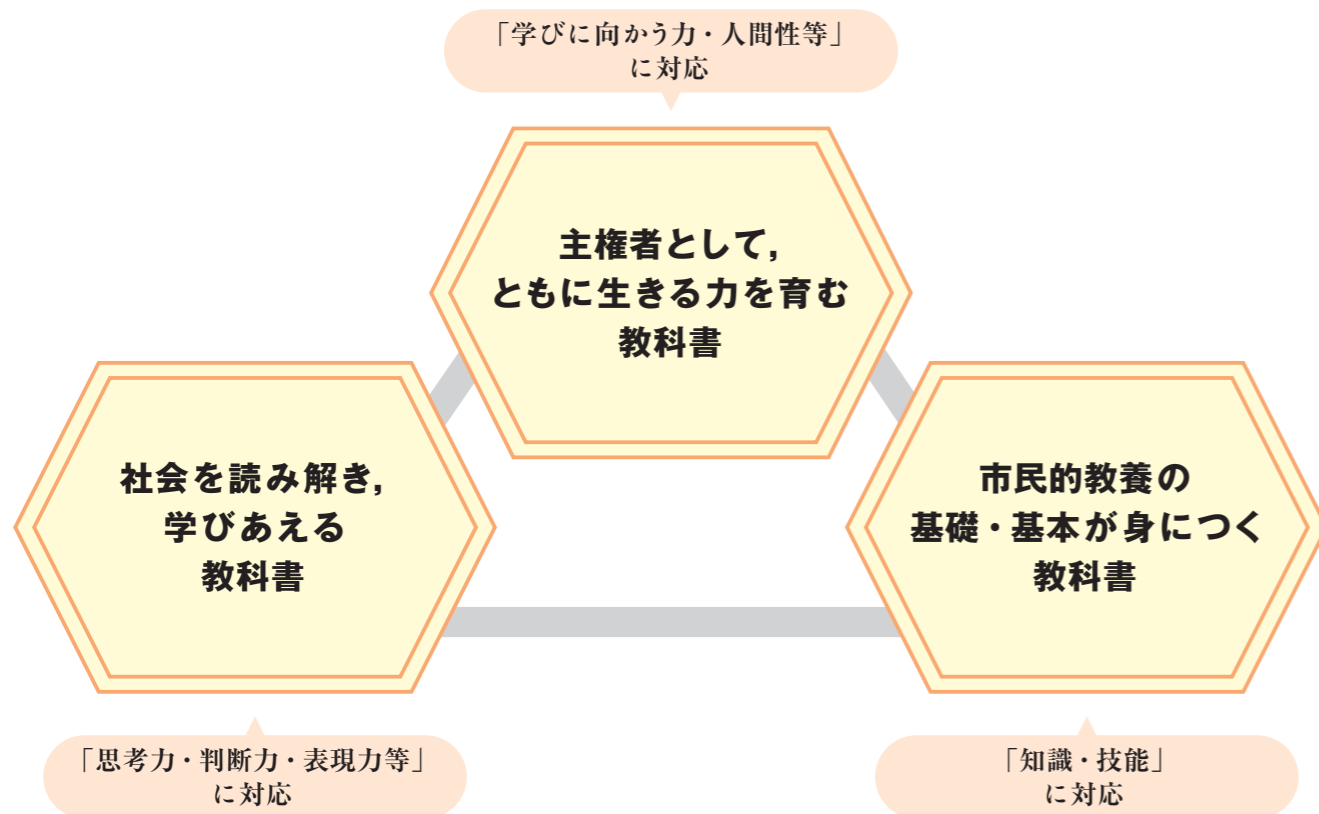
小学校の社会科、地理、歴史での学習を経て、これまでの社会科学習の集大成となる「公民」。持続可能な社会の創造を目ざし、簡単には答えの出せないさまざまな「問い」について、考え続けていく力を養います。

そこで、『卒業後もずっと手元に置いておきたい』教科書づくりを目ざしました。問い続け、考え続け、行動し続けるための教科書。何度も読み返したくなる教科書。身近な暮らしの中に課題を見だし、解決への思いや行動を世界へと広げていきます。それが、“ともに生きる”「公民」の教科書です。

そうしたねらいを具現化するため、以下の「育てたい生徒像」と「三つの基本方針」を掲げ、教科書を編修しました。

社会科で育てたい生徒の姿と、教科書作成の三つの基本方針

【育てたい生徒像】 持続可能な社会を創造する市民の育成



特に「公民」の教科書では、「18歳選挙」を見据え、“主権者”として社会に参画していくための知識や態度の育成を重視し、多文化共生と持続可能な社会の創造に向けて、社会と関わり続ける意欲を高める学びの実現を目ざしました。

◎ 代表者のメッセージ

教科書から引き出す「対話」



今、私たちのまわりには、持続可能か不可能かせめぎ合うたくさんの「問い」があります。地球上の遠い国や地域のできごとが、私たちに直接影響を与える時代です。また、その「問い」に対して専門家も政治家も正解をもっていない時代です。だからこそ、異なる見方・考え方をもつ人々との「対話」がとて大切になってきています。

「対話」には、学びの対象となる「世界との対話」、ともに学び合う生徒や先生など「他者との対話」、そして、自らの見方・考え方を深める「自己との対話」があります。この「公民」教科書には、教科書の全体と各章ごとに、ともに答えを探し合う「問い」と、それらに回答するページが用意されています。本書は、生徒はもちろん、多くの他者とともに問いかけ回答し合う「対話」を引き出す教科書です。

成田 喜一郎（前東京学芸大学教授／自由学園副学園長）

「中学社会 公民」の三つの特色

1 ともに学ぶ力・深く学ぶ力を育む 内容構成の工夫

授業1時間ごとの見通し・振り返りに加えて、節・章といった学習のまとまり（単元）ごとにも見通し・振り返りを設けて、学習してきたことが定着するように工夫しています。また、本時の学習をサポートする各種のコラムによって、知識・技能とともに、「見方・考え方」を働かせる力が身につくよう、学習が深まります。

2 持続可能な社会の実現に向け、 課題解決に取り組むことができる内容の充実

責任ある主権者として社会に関わっていこうとする意識が身につくような教材を、多数掲載しています。身近な地域や伝統文化、SDGs、領域をめぐる内容など、社会科として外すことのできない学習項目について、実生活や最新の話題と関連付けてわかりやすく取り上げ、自分事として考える力が身につきます。

3 学びを広げる・つなげる・深めるための 紙面・内容の工夫

防災などの学習では、各分野の学習のみならず、分野間の連携を図ることで中学校社会科としての総理解を深めます。また、小学校や高等学校との連携をしっかりと教科書内に明示することで、見通しをもった学習の実現に寄与します。加えて、ユニバーサルデザインやグラビア資料ページなど、生徒の学びを支援し、意欲を引き出す多彩な工夫が、授業だけでなく自学の場面でも学びを支えます。

目次

特色1

ともに学ぶ力・深く学ぶ力を育む 内容構成の工夫	2
1 見通し・振り返りの学習活動に取り組みやすい内容構成	2
2 思考・判断・表現する場面を位置づけた、 学習の流れがわかりやすいページ構成	4
3 「見方・考え方」を働かせた 学びや資料の活用を支援する学習コーナー	6

特色2

持続可能な社会の実現に向け、 課題解決に取り組むことができる内容の充実	8
1 主権者として社会に参画する意識を 高めることができる教材・内容	8
2 社会的な課題を多面的・多角的にとらえ、 考察することができる教材・内容	10
3 身近な地域から社会を考えることができる教材・内容	12

特色3

学びを広げる・つなげる・深めるための 紙面・内容の工夫	14
1 3分野の学びを関連させ、社会をより深く 理解することができる内容・構成	14
2 小学校・中学校・高等学校の学びのつながりを 意識した内容・構成	16
3 自ら学ぶ力を支える紙面・内容の工夫	18
授業を支える教師用指導書と周辺教材のご紹介	20
著者の紹介	裏表紙